

平成元年度大会の概況 日本思想史学会平成元年度大会は、十月十四日(土)・十月十五日(日)の両日、武蔵大学を会場として開催された。

第一日は、公開講演が行われた。講演者と演題は次の通りである。

近代日本哲学の思想的意義——その評価の変容をめぐって—— 桜美林大学教授 湯 浅 泰 雄氏

講演終了後、総会が行われ、事務局より昭和六十三年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて事務局より平成元年度事業計画および予算案が提案され、審議の結果、それぞれ事務局案通り決定された。

引き続き、武蔵大学生協食堂において懇親会が催された。

第二日は、研究発表が行われた。発表者は次の諸氏である。

- | | | | |
|-----|-------------------------------|-------------|-----------|
| 1、 | 記紀風土記万葉集の漢字——部首序列と構成比の視点から—— | 白 鷗 大 学 | 吉 野 寛 治 |
| 2、 | 院政期における穢の諸相 | 大正大学総合仏教研究所 | 三 橋 正 子 |
| 3、 | 道元の思想構造 | 東京大学大学院 | 頼 住 光 史 |
| 4、 | 北条重時家訓の一考察 | 群馬県立女子大学 | 市 川 浩 基 |
| 5、 | 「胎内十月の図」——中世から近世への思想的展開—— | 岩 手 大 学 | 中 村 一 哲 |
| 6、 | 宮本武蔵における「道」 | 筑波大学大学院 | 笠 井 浩 哲 |
| 7、 | 権の思想と中江藤樹 | 大阪大学大学院 | 樋 口 浩 造 |
| 8、 | 伊藤仁斎における「中庸」について | 日本学術振興会 | 遠 山 浩 敦 |
| 9、 | 「神令」の成立年代に対する考察 | 小 山 恵 子 | |
| 10、 | 『關邪編』の思想——光謙の玄旨帰命壇批判—— | 東北大学大学院 | 曾 根 原 理 子 |
| 11、 | 吉田松陰の諫死の思想——僧黙菴との往復書簡論争を中心に—— | 亜 細 亜 大 学 | 東 中 野 修 道 |
| 12、 | 理想的国家像の系譜——横井小楠と中江兆民—— | 横浜国立大学大学院 | 志 村 正 昭 |

- | | | | | | | | | | |
|-----|------------------------------------|-----------|----|---|---|--|--|--|--|
| 13、 | 内村鑑三と進化論 | | | | | | | | |
| 14、 | 海保青陵交遊録——〈文雅〉と〈商業〉—— | 千葉県立柏中央高校 | 藤田 | 清 | 豊 | | | | |
| 15、 | 反徂徠としての富永仲基——論語微駁説を中心に—— | 東海大学 | 八木 | 康 | 子 | | | | |
| 16、 | いわゆる大田南畝の転向をめぐって——寛政期の学問吟味との関連から—— | 大阪大学大学院 | 宮川 | 章 | 則 | | | | |
| 17、 | 寛政期の危機意識——幽谷と君平—— | 東北大学 | 前田 | | | | | | |
| 18、 | 生活中心主義——肉食—— | 岩手大学 | 藤原 | | | | | | |
| 19、 | 時枝言語学の成立——ソシユール・フツサル・国学—— | 東海学園女子短大 | 櫻井 | | | | | | |